

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 07-240176

(43)Date of publication of application : 12.09.1995

(51)Int.Cl.

H01J 61/30

(21)Application number : 06-029479

(71)Applicant : TOSHIBA LIGHTING & TECHNOL  
CORP

(22)Date of filing : 28.02.1994

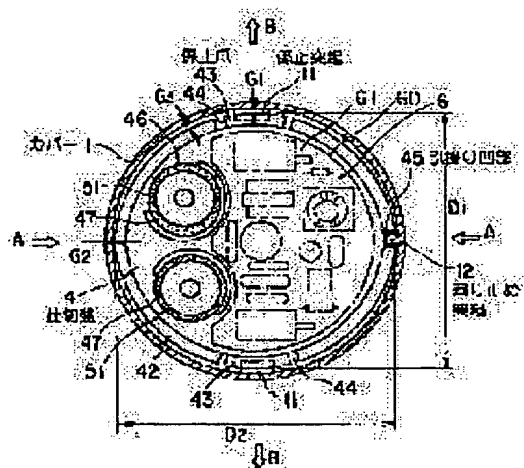
(72)Inventor : NISHIO KIYOSHI  
OGISHI KAZUHISA  
YASUDA TAKEO

## (54) COMPACT SELF-BALLASTED FLUORESCENT LAMP DEVICE

## (57)Abstract:

**PURPOSE:** To provide a compact self-ballasted fluorescent lamp device in which when a locking tongue piece is formed in a position of symmetry of a partition board, the deformation of a cover is prevented to prevent coming off of the locking tongue piece.

**CONSTITUTION:** In a compact self-ballasted fluorescent lamp device in which a partition board 4 is fixed to other end of a cover 1 having a base 3 and a fluorescent lamp is fixed to the partition board 4, locking tongue pieces 43, 43 having elasticity in the direction of diameter are formed in a position of symmetry of the partition board 4. Locking projections 11, 11 for locking the locking tongue pieces are formed on the inner surface of the cover, a space G2 between the outer circumferential surface in the direction perpendicularly crossing to a space G1 or G2 and the inner surface of the cover is made smaller than the space G1 or G3 between the outer circumferential surface of the partition board in the vicinity of a portion where the locking projections lock to the locking tongue pieces and the inner surface of the cover. Since the space G2 is smaller than the space G3, when force is applied to the direction perpendicularly crossing to the locking portion, diameter shrinking amount of the cover in this portion is decreased, widening of the cover diameter in the locking portion is prevented, and coming off of the locking tongue from the locking projection is prevented.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of  
rejection][Kind of final disposal of application other than  
the examiner's decision of rejection or  
application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision  
of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-240176

(43) 公開日 平成7年(1995)9月12日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

H 0 1 J 61/30

識別記号

庁内整理番号

S

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平6-29479

(22) 出願日 平成6年(1994)2月28日

(71) 出願人 000003757

東芝ライテック株式会社

東京都品川区東品川四丁目3番1号

(72) 発明者 西尾 清志

東京都品川区東品川四丁目3番1号 東芝  
ライテック株式会社内

(72) 発明者 尾岸 和久

東京都品川区東品川四丁目3番1号 東芝  
ライテック株式会社内

(72) 発明者 安田 丈夫

東京都品川区東品川四丁目3番1号 東芝  
ライテック株式会社内

(74) 代理人 弁理士 鈴江 武彦

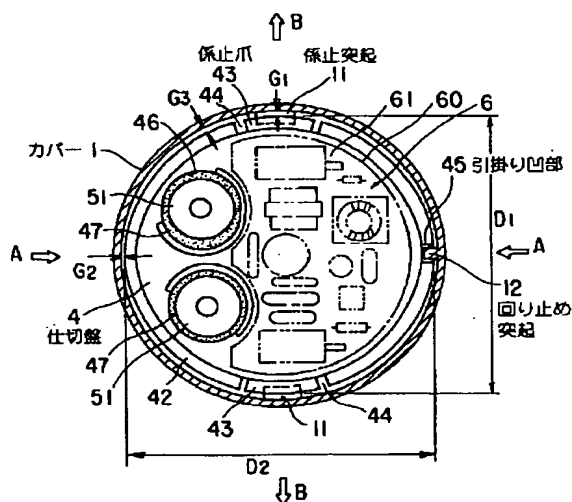
(54) 【発明の名称】 電球形けい光ランプ装置

(57) 【要約】

【目的】仕切盤の対称位置に係止舌片を形成した場合、カバーのいびつな変形を防止して係止舌片の外れを防止した電球形けい光ランプ装置を提供する。

【構成】口金3を設けたカバー1の他端に仕切盤4を取り付け、この仕切盤4にけい光ランプ5を取着した電球形けい光ランプ装置において、仕切盤の対称位置に径方向へ弾性可能な係止舌片43、43を設け、カバーの内面に上記係止舌片に係止する係止突起11、11を設け、上記係止舌片と係止突起に係止する箇所の近傍における仕切盤外周面とカバーの内面との隙間G1またはG3よりも、これらと直交する方向の仕切盤外周面とカバー内面との隙間G2を小さくした。

【作用】隙間G2をG3より小さくしたから、係止箇所と直交する方向に力が加わった場合、この部分のカバーの縮径量が小さく規制され、係止箇所ではカバー径が広がるのが防止され、係止舌片に係止突起から外れ難くなる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 カバーの一端に口金を設けるとともに他端に仕切盤を設け、この仕切盤の外部に屈曲した放電路を有するけい光ランプを取り付け、かつ上記仕切盤で区画された上記カバー内に上記けい光ランプの点灯を維持する点灯装置を設けた電球形けい光ランプ装置において、

上記仕切盤の外周部に、互いにほぼ対称位置に離間し、それぞれ径方向へ弾性変形可能な係止舌片を設け、上記カバーの内面には上記係止舌片がそれぞれ係止する係止突起を設け、

上記係止舌片と係止突起が係止する箇所の近傍における上記仕切盤外周面とカバーの内面との隙間よりも、これと直交する方向の上記仕切盤外周面とカバー内面との隙間を小さく形成したことを特徴とする電球形けい光ランプ装置。

【請求項2】 上記仕切盤とカバーのいずれか一方に回り止め突起、および他方にこの回り止め突起に係合して仕切盤の回動を防止する引掛かり凹部を設けたことを特徴とする請求項1に記載の電球形けい光ランプ装置。

【請求項3】 上記回り止め突起と引掛かり凹部は、上記係止舌片と係止突起とが係止する位置から周方向にほぼ90°離れた位置に設けたことを特徴とする請求項2に記載の電球形けい光ランプ装置。

【請求項4】 上記仕切盤に、上記けい光ランプの両端部が挿入されて接合される取付け筒部を形成し、この取付け筒部の位置を上記係止舌片と係止突起とが係止する位置から周方向へ離れた位置に形成したことを特徴とする請求項1に記載の電球形けい光ランプ装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、一端に口金を設けたカバーの他端に仕切盤を設け、仕切盤の外に屈曲した放電路を有するけい光ランプを取着するとともに、上記カバー内に点灯装置を収容した電球形けい光ランプ装置に関する。

## 【0002】

【従来の技術】最近、例えば特開昭61-173446号公報などに示されるように、白熱電球に代わって使用可能なけい光ランプ装置が開発され、電球形けい光ランプ装置などと称して市販されている。この種の電球形けい光ランプ装置は、一端にねじ込み形口金を設けた樹脂製カバーの他端に仕切盤を設け、この仕切盤の外部にU字形、H字形、W字形、鞍形等のような屈曲形放電路を有するけい光ランプを取り付けるとともに、カバー内に点灯装置、例えば安定器やトランジスタインバータなどのような高周波点灯回路部品を収容して構成されている。

【0003】上記けい光ランプはこれを剥きだしのまま使用するタイプと、このけい光ランプの外周を、カバー

に接合した透明あるいは光拡散性のグローブで覆ったタイプがある。

【0004】この種の電球形けい光ランプ装置は、けい光ランプと点灯装置とを一体的に備えていることから、白熱電球用のソケットに、白熱電球に代わって取り付け使用することができ、この場合は、白熱電球に比べて全光束が大きく、発光効率が高く、かつ寿命特性も格段に優れるなどの利点がある。

【0005】ところで、この種の電球形けい光ランプ装置において、仕切盤をカバーに取り付ける場合、接着剤を用いて接合したものがある。しかし、接着剤を用いると、接着剤の塗布や乾燥、およびこれらカバーと仕切盤との位置決め保持などに手間を要し、接合作業が面倒であり、作業時間が長くなるなどの不具合がある。

【0006】これに対し、仕切盤の周縁部にフランジ部を形成してこのフランジ部に複数の切欠部を形成し、これら切欠部をカバーの内面に形成した係止突起を通過させてこれら仕切盤とカバーを相対的に回動させることにより上記仕切盤のフランジ部をカバーの係止突起に載せるようにして引っ掛ける構造のものも採用されている。しかし、この場合も仕切盤とカバーを相対的に回動させる必要があるため、組み付け作業が面倒であり、また回り止めの格別な手段が必要である。

## 【0007】

【発明が解決しようとする課題】このようなことから、最近、仕切盤の周縁部に3個または4個の係止舌片を形成し、これら係止舌片は径方向に弾性変形可能とし、これら係止舌片をその弾性を利用して上記カバーの内面に形成した係止突起に係止させるように構成したものがある。このものによれば、単に仕切盤をカバーに差し込むだけで係止舌片が弾性変形して係止突起を越え、これが弾性復帰して係止突起に係止するから、格別な回動操作などが不要であり、組立てきわめて容易になる。

【0008】しかしながら、上記係止舌片を周方向に3個以上形成して係止箇所を3箇所以上にした場合は、1箇所ですらうまく係合していなくても、他の2箇所以上で仕切盤がカバーに係止することがあり、このような場合は、仕切盤がカバーに仮止めのように係合することがある。作業者は、この場合でも、全部の係止箇所が係合したものと誤って認識し、これをそのまま組み立てることがある。しかし、この場合は当然係止が不安定であることから、搬送中に外れるなどの不具合が生じる。

【0009】このような不具合を防止するためには、係止箇所を2箇所にすればよい。すなわち、仕切盤の対称位置、つまり周方向に180度の角度で離間して2個の係止舌片を設けるとともに、カバー側にはこれら係止舌片に係合する合計2個の係止突起を設けるようにすれば、片方の係止を忘れた場合は仕切盤が引っ掛からないから、1箇所の係止忘れを防止することができる。

【0010】しかしながら、カバーはPBT樹脂などの

ような合成樹脂によりラッパのような形に形成されているので、開口部に外力が加えられると、カバーがいびつに弾性変形することがある。上記のように対称位置に形成した係止舌片を用いて仕切盤をカバーに係合させる構造の場合、これら係止部と直交する方向でカバーに、このカバーの径を縮小する方向に外力を加えると、これと直交する上記係止舌片の位置ではカバーの径が拡大し、つまり膨らむように弾性変形する。すると、この箇所では係止突起が外に変位するからこの係止突起が係止舌片から逃げ、つまり係止突起が外れ、このため仕切盤がカバーから外れる心配がある。

【0011】本発明はこのような事情にもとづきなされたもので、その目的とするところは、仕切盤の対称位置に係止舌片を形成してこの仕切盤をカバーの係止突起に係合させて取り付ける場合、カバーのいびつな変形を防止して上記係止舌片が外れ難くした電球形けい光ランプ装置を提供しようとするものである。

【0012】

【課題を解決するための手段】請求項1の発明は、カバーの一端に口金を設けるとともに他端に仕切盤を設け、この仕切盤の外部に屈曲した放電路を有するけい光ランプを取り付け、かつ上記仕切盤で区画された上記カバー内に点灯装置を設けた電球形けい光ランプ装置において、上記仕切盤の外周部に、互いにほぼ対称位置に離間し、それぞれ径方向へ弾性変形可能な係止舌片を設け、上記カバーの内面には上記係止舌片がそれぞれ係止する係止突起を設け、上記係止舌片と係止突起が係止する箇所の近傍における上記仕切盤外周面とカバーの内面との隙間G1またはG3よりも、これと直交する方向の上記仕切盤外周面とカバー内面との隙間G2を小さく形成したことを特徴とする。

【0013】請求項2の発明は、仕切盤とカバーのいずれか一方に回り止め突起、および他方にこの回り止め突起に係合して仕切盤の回転を防止する引掛かり凹部を設けたことを特徴とする。

【0014】請求項3の発明は、回り止め突起と引掛かり凹部は、上記係止舌片と係止突起とが係止する位置から周方向にほぼ90°離れた位置に設けたことを特徴とする。

【0015】請求項4の発明は、仕切盤に、上記けい光ランプの両端部が挿入されて接合される取付け筒部を形成し、この取付け筒部の位置を上記係止舌片と係止突起とが係止する箇所から周方向へ離れた位置に形成したことを特徴とする。

【0016】

【作用】請求項1の発明によれば、仕切盤の外周部に、互いに対称位置に離間してそれぞれ径方向へ弾性変形可能な係止舌片を設けるとともに、カバーの内面に上記係止舌片がそれぞれ係止する係止突起を設けた仕切盤の取付け構造において、上記係止舌片と係止突起が係止す

る箇所では、仕切盤の外周面とカバーの内面との隙間G1またはG3よりも、これと直交する方向の上記仕切盤の外周面とカバー内面との隙間G2を小さく形成したので、係止箇所と直交する方向の位置に外から力が加わった場合、この部分での隙間が小さいのでカバーは仕切盤に当たってカバーの径が縮小する量が少なくなり、このことから、上記係止箇所ではカバー径の広がるのが規制され、よって係止舌片が係止突起から外れのが防止される。

10 【0017】請求項2の発明によれば、回り止め突起と引掛かり凹部の係合によって仕切盤とカバーの相対的な回転が阻止されるから、係止舌片と係止突起が周方向に位置ずれしなくなり、これらの外れが防止される。

【0018】請求項3の発明によれば、回り止め突起と引掛かり凹部の係合箇所は、前記隙間の小さな位置に設けられることになるから、回り止め突起と引掛かり凹部の係合が精度よく嵌まり合い、相互のがたつきが防止される。このことから対称位置の係止舌片と係止突起の係合箇所を、若干仕切盤の外周面とカバーの内面との隙間G1またはG3が大きくても、がたつかないからこれら係止舌片と係止突起の外れを防止することができる。

【0019】請求項4の発明によれば、けい光ランプの両端部を固定するための取付け筒部の位置を、係止舌片と係止突起とが係止する箇所から周方向へ離れた位置に設けたので、けい光ランプの点灯中に温度上昇の大きな電極の封止端部に対し上記係止舌片と係止突起との係止箇所を距離的に離すことができ、係止箇所が熱を受けてカバーが膨張することがなく、よって熱変形による係止舌片と係止突起の外れを防止することができる。

30 【0020】

【実施例】以下本発明について、図面に示す一実施例にもとづき説明する。図において1はPBT樹脂などの耐熱性合成樹脂からなるカバーであり、このカバー1の一端には円筒部2が一体に形成されている。この円筒部2にはE26形などのようなねじ込み形口金3が被着されており、この口金3は接着剤またはかしめ等により円筒部2に固定されている。

【0021】上記カバー1の他端は仕切盤4により閉塞されている。仕切盤4も、例えばPBT樹脂のような耐熱性合成樹脂によってほぼ円形の皿形をなしている。この仕切盤4は図2にも示すように、立上がり形状の側壁41の上端開口縁にフランジ部42を形成してあり、このフランジ部42には図3にも示すように、周方向に離間して2個の係止舌片43、43を形成してある。これら係止舌片43、43は周方向にほぼ180度の角度をなすように対称位置に形成されており、上記フランジ部42に設けたスリット44…により、このフランジ部42を周方向に分断するようにして形成されている。このため、これら係止舌片43、43は立上がり壁部と、この先端に形成された爪部とで構成されており、立上がり

壁部が径方向へ弾性変形可能となり、先端の爪部が径方向に変位可能となっている。

【0022】このような係止舌片43、43に対し、カバー1の内面にはこれら係止舌片43、43に係止する係止突起11、11が一体に形成されている。すなわち、カバー1と仕切盤4とを、互いに中心軸方向に沿って突き合わせると、係止舌片43、43が弾性変形してその爪部が係止突起11、11を乗り越え、これによりこれらカバー1と仕切盤4を相対的に回動させることなく、係止舌片43、43に係止突起11、11に係合させることができるようになっている。したがって、仕切盤4は、これら係止舌片43、43と係止突起11、11の係合により、カバー1に係合されている。

【0023】上記仕切盤4のフランジ部42には、上記対向して形成されている係止舌片43、43と直交する方向の一方に回り止め突起または引掛かり凹部のいずれか一方、本実施例では引掛かり凹部45が切欠して形成されている。この引掛かり凹部45に対向して上記カバー1の内面には、この引掛かり凹部45に嵌合する回り止め突起12が形成されている。これら引掛かり凹部45と回り止め突起12は、上記仕切盤4をカバー1に対して中心線方向に沿って接離させた場合に互いに挿脱して係合するようになっており、これにより仕切盤4とカバー1は相対的に回動するのが阻止される。

【0024】上記カバー1は全周に亘り均等な径を有し、かつ均等な肉厚をなしている。これに対し、仕切盤4の外周面、実質的にはフランジ部42の外周面は、図3に示す通り、係止舌片43、43を設けた方向の外径D1に比べて、これと直交する方向の外径D2が大きく形成されている（ $D1 < D2$ ）。このため、フランジ部42の外周面とカバー1の内面との隙間は、係止舌片43、43を形成してある箇所近傍の隙間（ギャップ）G1よりも、これと直交する方向の隙間G2が小さく（ $G1 > G2$ ）形成されている。

【0025】なお、係止舌片43、43は弾性変位するから、係止舌片43の外周面とカバー1の内面との隙間G1は精密に測定し難い。このため、係止舌片43、43に近接するフランジ部42の外周面とカバー1の内面との隙間（図面でG3として示す）を測定するようにしてもよい。つまり、隙間G1は隙間G3とほぼ同一であるから、係止舌片43と係止突起11に係止する箇所における仕切盤4の外周面とカバー1の内面との隙間G1は、係止舌片43と係止突起11に係止する箇所近接した場所の仕切盤4の外周面とカバー1の内面との隙間G3としてもよく、したがって、この箇所は、係止舌片43と係止突起11に係止する箇所の近傍と定義する。

【0026】そして、上記回り止め突起12と掛かり凹部45の位置は、上記隙間の小さなG2箇所形成されている。また、上記仕切盤4には、上記係止舌片43、43と直交する方向の他方、すなわち上記引掛かり凹部

45を形成した箇所と反対側の位置に、ランプ取付け筒部46、46が一体に形成されている。これらランプ取付け筒部46、46にはけい光ランプ5が取付けられている。

【0027】けい光ランプ5は、U字形、W字形などであってよいが、本実施例は鞍形けい光ランプを使用している。この鞍形けい光ランプ5は、バルブ50の両端部51、51が封止されており、これら両端部51、51の間にU字形に屈曲された中央屈曲部52を有し、この中央屈曲部52は上記両端部51、51と同一方向を向くように曲げ成形されている。上記両端部51、51には図1に示す電極53、53（一方のみ示す）が封装されており、かつバルブの内面には図示しないけい光体被膜が形成されている。そして、上記両端部51、51には細管54、54を突出されており、これら細管54、54の少なくとも一方にはアマルガム55が収容されている。このアマルガム55は点灯中の水銀蒸気圧を制御するものである。なお、バルブ内にはアルゴンなどの希ガスが封入されている。

【0028】このような鞍形けい光ランプ5は、両端部51、51が上記仕切盤4に形成したランプ取付け筒部46、46に仕切盤4の外から差し込まれ、これら端部51、51と筒部46、46との間にシリコンなどの熱硬化性接着剤47を充填し、この接着剤47により仕切盤4に固定されている。この場合、接着剤47はランプ取付け筒部46、46の内面全周に亘り充填されており、よってバルブ50の端部51、51の外周面は全周に亘り接着剤47に接触するから、ランプ5の接合強度が高くなるばかりでなく、電極53により温度上昇するバルブ端部51、51の熱が接着剤47、47を通じて仕切盤4に熱伝導されるから、細管54に収容したアマルガム55の温度上昇を防止し、過度な水銀蒸気圧の上昇を抑止している。

【0029】また、このような接合状態では、上記ランプ5の中央屈曲部52は、他の接着剤48によって仕切盤4の下面に接合されている。このため、鞍形けい光ランプ4は、両端部51、51と中央屈曲部52の合計3箇所により仕切盤4に固定されている。

【0030】さらに、仕切盤4には、カバー1にて覆われる空間内に位置して、点灯装置6が取り付けられている。点灯装置6は、通常に安定器および始動用のグロースタータであってもよいが、本実施例の場合は、トランジスタインバータを用いた高周波点灯装置を使用している。高周波点灯装置は、詳細な説明を省略するが、公知のノイズフィルタ、全波整流器、平滑コンデンサ、トランジスタやサイリスタ、正特性サーミスタなどからなるスイッチング回路、チョークバラスト、直流カットコンデンサや共振用コンデンサなどの点灯回路部品61を備えており、これら点灯回路部品61はプリント配線基板60に実装されている。この配線基板60は上記仕切盤

4の上面に載置されており、図示しない引掛爪により仕切盤4に機械的に係止されている。そして、上記屈曲形けい光ランプ5の電極は図示しない外部リード線を通じて上記点灯装置6に電氣的に接続されている。

【0031】上記けい光ランプ5は、グローブ7により覆われている。グローブ7は、透明または光拡散性の合成樹脂あるいはガラスからなり、上端が開口したカップ形状をなしている。このグローブ7は上端開口部を若干小径に形成してストレート形の首部71を有している。このようなグローブ7の首部71は、図1に示すよう

に、カバー1の内面と仕切盤4の立上がり側壁41との間に形成されたリング形状の隙間に差し込まれ、接着剤72によってカバー1の内面および仕切盤4の立上がり側壁41に接合されている。

【0032】このような構成による実施例の作用を説明する。仕切盤4をカバー1に取り付ける場合、仕切盤4の対称位置に形成した2個の係止舌片43、43を、カバー1の内面に形成した2個の係止突起11、11にそれぞれ対向させるとともに、仕切盤4に形成した引掛かり凹部45をカバー1の内面に形成した回り止め突起12と対向させる。この状態で仕切盤4をカバー1の開口部に嵌め込むと、係止舌片43、43の立上がり側壁が弾性変形してその先端の爪部が係止突起11、11を乗り越え、これにより係止舌片43、43が係止突起11、11に係合する。このとき、仕切盤4に形成した引掛かり凹部45がカバー1に形成した回り止め突起12に嵌まり込む。

【0033】したがって、カバー1と仕切盤4を相対的に回動させることなく、仕切盤4をカバー1に係合させることができる。そして、この係合状態においては、引掛かり凹部45と回り止め突起12が係合しているからカバー1と仕切盤4が相対的に回動することがない。よって、係止舌片43、43および係止突起11、11が2個ずつ設けられているにも拘らず、これら係止舌片43、43と係止突起11、11が周方向に位置ずれして外れることがなく、仕切盤4がカバー1から外れることが防止される。

【0034】そしてまた、仕切盤4のフランジ部42とカバー1の内面との隙間は、係止舌片43、43を形成してある箇所近傍の隙間（ギャップ）G3に対して、これと直交する方向に位置する隙間G2を小さく（G3>G2）形成してある。このため、カバー1に、係止突起11、11を形成した箇所とこれと直交する方向に、図3の矢印A、A方向から外力が加えられた場合、この方向のギャップG2は小さいからカバー1の内面はすぐにフランジ部42に当たるようになり、この方向のカバー1の変形、つまり縮径が規制される。この結果、上記外力A、Aと直交する方向のカバー1の径が広がるのが規制される。つまり、カバー1の係止突起11、11と係止舌片43、43が係合している箇所が、矢印B、B

方向にいびつ変形するのが防止される。したがって、係止突起11、11が係止舌片43、43から外れるのが防止され、よって仕切盤4がカバー1から外れるのが防止される。

【0035】なお、カバー1の矢印B、B方向とは逆方向の外力が加えられても、これは係止突起11、11を係止舌片43、43に押し付ける方向に変形するから、係止舌片43、43がはずれる心配はない。

【0036】そして、回り止め突起12と引掛かり凹部45の係合箇所は、前記隙間の小さな位置G2に設けられることになるから、回り止め突起12と引掛かり凹部45の係合が精度よく嵌まり合い、相互にがたつきを生じることなく係合させることができる。このことから、上記対称位置の係止舌片43、43と係止突起11、11の係合箇所、フランジ部42の外周面とカバー1の内面との隙間G3が若干大きくて形成されていても、回り止め突起12と引掛かり凹部45によりがたつきが防止されているから、これら係止舌片43、43と係止突起11、11が外れるのを防止することができる。

【0037】そして、ランプ5が点灯すると、電極53、53から放出される熱により、バルブ端部51、51の温度が上昇し、この熱は取り付け筒部46、46を通じて仕切盤4に伝わる。この場合、仕切盤4では、取り付け筒部46、46を形成した部分の温度が上昇する。したがって、カバー1ではこれら取り付け筒部46、46に距離的に近い箇所が熱を受けて膨脹することになる。

【0038】仮に、このような熱膨脹を生じる箇所を、係止舌片43、43および係止突起11、11を形成した箇所近づくて設置すると、カバー1が矢印B、B方向に熱膨脹して係止突起11、11が係止舌片43、43から外れる心配があるが、上記熱膨脹を生じる箇所を、係止舌片43、43および係止突起11、11を形成した箇所から遠い位置に設けたので、カバー1が矢印B、B方向に変形することなく、よって係止突起11、11が係止舌片43、43から外れるのを防止することができる。

【0039】なお、本発明は上記の実施例の制約されるものではない。すなわち、上記実施例の電球形けい光ランプ装置は、グローブ7によってけい光ランプ5を覆ったが、グローブ7は必ずしも使用するものではなく、ランプ5を剥きだしのまま使用するような電球形けい光ランプ装置であっても実施可能である。

【0040】また、上記実施例ではグローブ7を接着剤72によりカバー1の内面と仕切盤4の立上がり側壁41との両者に接着したから、仕切盤4はこの接着剤72によってカバー1に接合されることになり、上記係止舌片43、43と係止突起11、11との係合に加えて上記接着剤72によっても接合されるから、接合強度が高くなる。

【0041】しかしながら、仕切盤4は接着剤によりカバー1に接合されることには限らず、よって上記接着剤72はグローブ7よカバー1の内面とを接合するだけで仕切盤4を接合しない場合であっても実施可能である。

【0042】

【発明の効果】以上説明したように本発明によると、仕切盤に形成した2個の係止舌片をカバー側に形成した係止突起に対して押し込み式に係合させるので、構造が簡単でありながら両者の組み付け作業が容易になる。しかも2個の係止舌片と係止突起との係合であるにも拘らず、係止舌片と係止突起との係合箇所の近傍における仕切盤の外周面とカバーの内面との隙間を対し、これと直交する方向の上記仕切盤の外周面とカバー内面との隙間を小さく形成したので、カバーに外力が加わった場合に、カバーのいびつな変形が防止されるようになり、係止舌片が係止突起から外れ難くなる。このため仕切盤とカバーの係合が確実に保たれ、信頼性が向上する。

【図面の簡単な説明】

\*【図1】本発明の一実施例を示す電球形けい光ランプ装置の全体の断面図。

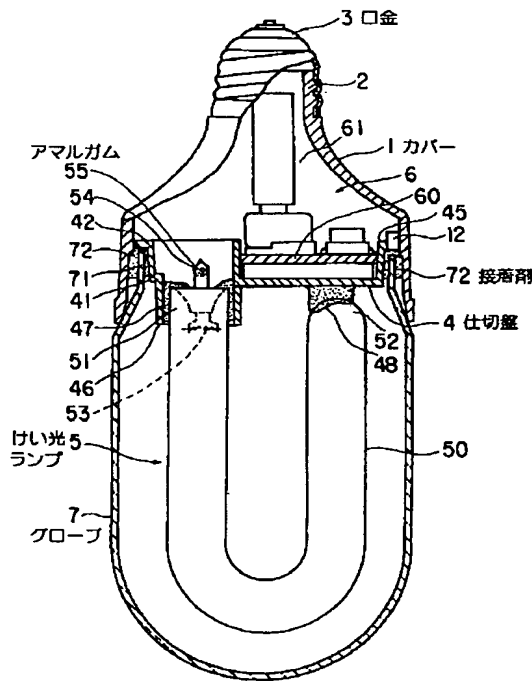
【図2】同実施例のグローブの図示を省略して示す分解した斜視図。

【図3】同実施例の仕切盤とカバーとの係合部分を示す横断面図。

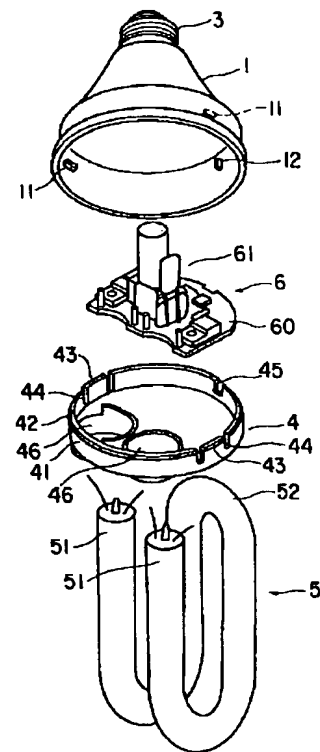
【符号の説明】

- |                 |           |
|-----------------|-----------|
| 1…カバー           | 3…口金、     |
| 4…仕切盤           | 5…屈曲形けい光ラ |
| 6…点灯装置          | 7…グローブ    |
| 11…係止突起         | 12…回り止め突起 |
| 41…立上がり側壁       | 42…フランジ部  |
| 43…係止舌片         | 45…引掛かり凹部 |
| 46…取り付け筒部       |           |
| 50…バルブ          | 51…バルブの端部 |
| 53…電極           |           |
| * G1, G2, G3…隙間 |           |

【図1】



【図2】





【図 3】

